

2010.09  
【第9号】



※ふるさとのかいのメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。  
今後もふるさとのかいの活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。

#### INDEX

- 1.第34回山谷夏祭り
- 2.職員研修 藻谷浩介氏講演
- 「これから日本はどのように超高齢化社会を乗り越えていくべきか」
- 3.在宅緩和ケア 穂波の郷クリニックに行って参りました！

### 1.第34回山谷夏祭り

8月21(日)、22日の2日間、台東区玉姫公園にてボランティアサークルふるさとのかいの主催により第34回山谷夏祭りを開催しました。ここ数年は雨に見舞われていたという夏祭りも今年は2日とも幸運にも晴天に恵まれ、高野山別院の僧侶の方々による無縁供養や「善意銀行友の会」やハーモニカバンドの皆さんによる演奏、そしてNPO訪問看護ステーションコスモスの皆さんによる健康相談など、多くの方々のご協力により賑やかなお祭りとなりました。

お祭りが始まるかなり前から多くの方々が屋台に並んでいて、皆さんこのお祭りを大変楽しみにしていただいていたのだと思いました。

お祭りは高野山別院の僧侶の方々による無縁供養・川施餓鬼により幕を開けます。これは山谷地域を新たな故郷として暮らし、そして誰に看取られることなく亡くなった方々を供養するものですが、供養が始まり皆さんが手を合わせる光景は、その瞬間山谷全体が一体となり祈りをささげているような感覚になり、荘厳な光景でありました。ただ、ひとたび無縁供養が終わり演芸の時間になると、皆さん各々ビールを片手にシートに座り、演奏に合わせて歌ったり踊ったりと、改めて山谷らしいなあと感じました。

言うまでもありませんが、毎年多くの方々によって支えられている夏祭りですが、今年は大学生や高校生のボランティアの方々にもご参加いただきました。初めてこの山谷地域に足を踏み入れた方も多く、街の雰囲気や行き交う人々の風景に終始圧倒されていたようでした。慣れない場所、ひと癖ある山谷の皆さん、そして異例な暑さも加わり、大変な二日間でしたが、この二日間が大きな思い出になるのではと期待しています。

当会では長年こうしたイベントなどでの作業をいわゆる「仕事づくり」の一環にしてきた経緯があり、私自身は数名の作業員を引き連れて舞台設営などの作業に参加しました。いっしょに汗を流しながら働くことで、一体感が生まれたと同時に達成感を皆さんと分かち合えた気がします。

毎年顔を出してくれる人、今年は来なかった人、来られなかった人。参加している皆さんも「あの人を見たか？」「あいつは来たか？」と互いのことをとても心配している様子でした。多くの人の心が行き交う大切な祭りなんだなあと感じました。

(鈴木宏仁)





## 2.これから日本はどのように超高齢化社会を乗り越えていくべきか(職員研修)

8月28日、株式会社日本政策投資銀行参事役の藻谷浩介氏をゲストにお迎えして職員研修を行いました。著書『デフレの正体(角川書店)』のテーマにもなっている日本経済の推移や人口動態などを基に、「これから日本はどのように超高齢化社会を乗り越えていくべきか」というテーマでご講演をいただきました。これまでには経済の動きと普段私自身が携わっている高齢者の生活支援の仕事が深くつながっているという実感があまりなかったのですが、今回の講演では、人口動態と経済推移の関係をパワーポイントやクイズ、時には冗談などを交え、非常にわかりやすく説明していただき、経済全体の動きと高齢化の進展が実際の私たちの支援の現場とどのように関係しているのかがより深く理解できるようになりました。

日本の人口の推移を年齢別や世代別(団塊世代など)でグラフにし、その推移を分かりやすいスライドで表現されているところは興味深いものでした。社会全体(特に若年層)がどのような財政負担を背負っているのかといった深刻なテーマを「通常なら死んでいるところ医療技術などの向上で団塊世代が死なずに駆け抜けていく」とユーモアを交えながら解説し、いかに年金制度や医療保険制度が経済成長の低下と高齢化を想定しない中で設計されたものであるのかが理解できました。「高齢者の増加と若年層の減少」というありふれたテーマを臨場感あふれる形で捉える事ができたと思います。

藻谷氏が指し示した答えは「内需と外需は分けて考え、高齢者の支援は内需主導で行う」とのものでした。そのためには高齢者支援の仕事を増やし、高齢者が暮らしやすい地域を作る必要があるとのことでした。

初めは高齢者の増加と若年層の減少が著しさに驚愕し、「こんなに多くの高齢者を少ない若年層で支援できるのだろうか。日本は破綻するのではないか」と不安に思いましたが、諸外国との貿易収支や財政状況の客観的な説明を聞き、また藻谷氏の提言を聞くことができたことで、解決の道筋がはっきりし不安が解消されました。また、私たちが行っている事業は生活困窮者や高齢者を支援するのみならず、地域再生・雇用の安定に結びつく事業であると感じることができ、いっそうのやりがいと使命感を感じる事ができた講演でした。お忙しい中お時間を作ってお越しいただいた藻谷氏に心より感謝を申し上げます。



## 3.在宅緩和ケア「穂波の郷クリニック」に行きまして！

「穂波の郷クリニック」は宮城県大崎市で在宅緩和ケアを行っている診療所です。今年の5月には院長の三浦先生とゼネラルマネージャーの大石さんがふるさと会へ講演に来てくださいました。その後も在宅緩和ケアについて様々な情報提供をいただいています。

今回、9月11日に第3回みやぎ在宅支援ドクターネットの講演会「地域で支える在宅緩和ケア～おひとりさまでも安心～」が開催されるとの案内をいただき、在宅緩和ケアについての理解を深めるため、穂波の郷クリニックを訪ねてきました。

穂波の郷クリニックは仙台駅の少し先の古川駅の近郊にあります。空気がおいしく、田んぼの広がるのどかな場所、金色の稲穂が一面に輝いていました。

今回の講演会では、岐阜で独居の看取りに取り組んでいる小笠原内科の小笠原文雄院長による講演を聴いてき

ました。病院にはない特別な何かが在宅にはある！患者さん自身が持っている力が、家族や過ごしていた場所と混ざり合って、とてつもない力を発揮することがあることを実際の体験談を中心に話してくださり、とても感動しました。

講演会の後は穂波の郷クリニックのコミュニティスペースにて小笠原先生とトータルヘルスプランナーの木村看護部長との交流 & お食事会がありました。三浦先生と大石さんをはじめ、参加者の皆さんの温かい人柄がにじみ出るような、とても素敵な時間でした。スタッフが持ち寄りの野菜や魚を使って心を込めて作った手料理を味わいながら、在宅緩和ケアの現場で日々感じていることや疑問点などについて話し合いをしました。穂波の郷クリニックが日々実践している“人とのつながり”そして“あったかい気持ちを持ち寄ること”の大切さを学ぶことができました。

(橋本 陽子)

発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会  
〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6  
TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950  
E-mail: [hurusato@d5.dion.ne.jp](mailto:hurusato@d5.dion.ne.jp)  
HTML: <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>